

学校だより

さいたま市立いろどり学園小学部・中学部
令和8年8月26日発行

第5号

「想像力」を高める

校長 米玉利 優子

長い夏休みが終わり、子どもたちの元気な声がいろどり学園に生命を吹き込んでくれました。夏休みはゆっくりと心と体を休めたり、好きなことに夢中に取り組んだりなど、一人ひとりが自分の思いを大切にしながら毎日を過ごせたことと思います。昨夜、お子様が「ああ、明日から学校だ。明日は休もうかな」等という声を聞いて、心配になった保護者もいらしたのではないのでしょうか。でも、安心なさってください。いやだな、面倒くさいなど感じることは当たり前のことです。学校生活は夏休みと違い、自分の思うように時間を使えない、ちょっと苦手な学習にも取り組まなくてはならないなど、小さなストレスを感じて当然だからです。だからこそ、私たちは、子どもたち一人ひとりの今の気持ちを大切にしたいと思っています。元気が出なくても大丈夫。毎日、登校できなくても大丈夫。1日中ずっと、オンライン授業に参加できなくても大丈夫。「大丈夫だよ」という思いをもって、子どもに寄り添っていくことをお約束いたします。

これから子どもが歩む道は、楽しいことばかりが続くわけではありません。困難にひるまず、安易な道に流されることなく、人生をたくましく生き抜く力を身につけ、「大丈夫」と自分自身を支えることのできる強い心を育てていくことも、いろどり学園の大切な使命です。そのためには、私たち大人が、子どもの今の気持ちや言葉にできない思いを想像し、「ちょっと行ってみようかな」「チャットで意見を伝えてみようかな」「先生に話してみようかな」そんな小さな気持ちの変化を見逃さず、大切に受け止め認めていく、その積み重ねが、子どもたちの「一歩踏み出してみよう」という力につながるのではないのでしょうか。

この夏は、熊本地震や千葉県内の豪雨など、自然災害により多くの方々が大変な思いをされました。尊い命を失われた方々に心からお悔やみ申し上げるとともに、今なお不安な日々を過ごされている皆様のことを、決して忘れてはならないと思っています。10年前の熊本地震の際に、私は教育委員会に勤務していたこともあり、熊本県にお手伝いに行かせていただきました。被災した自分たちより手伝いに来た私たちを心配し、「人は苦しい時に、その人の本性が出るものだからね。それが人間性でしょ。私ね、頭は悪いけど人間性は良いのよ。」「それが1番大事だって、さいたまに帰ったら、子どもたちに伝えてあげてね。」そう皆で笑い合う姿に、私は涙を止めることができませんでした。人間性とは何か。どう育成するのか。教師として生きる自分の責任の重さを感じ、「人間性は良いのよ」と胸を張って言える人を育てることが、熊本で頑張っている皆さんへの恩返しになるのだと、強く心に刻んだことを思い出します。だからこそ、いろどり学園の2学期は、「想像力を高める」を合言葉にしたいと思います。目の前にある一つの出来事を、いつも同じ方向から見のではなく、様々な方向から見つめ、感じ、考える。自分とは違う立場の人の気持ちを想像してみる。言葉にならない思いに心を寄せてみる。そのような毎日の積み重ねが、相手を思いやる心を育て、ひいては「人間性を高める」ことにつながっていくのだと、私は信じています。

いろどり学園が、子どもたちや保護者の皆様にとって、「ここにいていいのだな」と思える場所であるように。そして、自分らしさを大切にしながら歩んでいける場所となるように。教職員一同、心を合わせて努めてまいります。多くの行事がある2学期です。焦らず、ゆっくり、あたたかく。一人ひとりの「今」に寄り添いながら、想像力を働かせることで、見えなかったものが見えてくるはずですよ。そして、そこに新しい考えが生まれ、やがてそれが「創造」につながっていくと信じ、歩み続けます。

「想像力は、必ず創造につながる！」そんな2学期を、子どもたち、そして教職員とともにつくっていきたいと強く思います。保護者の皆様、地域の皆様、2学期もあたたかいご理解とご協力を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。